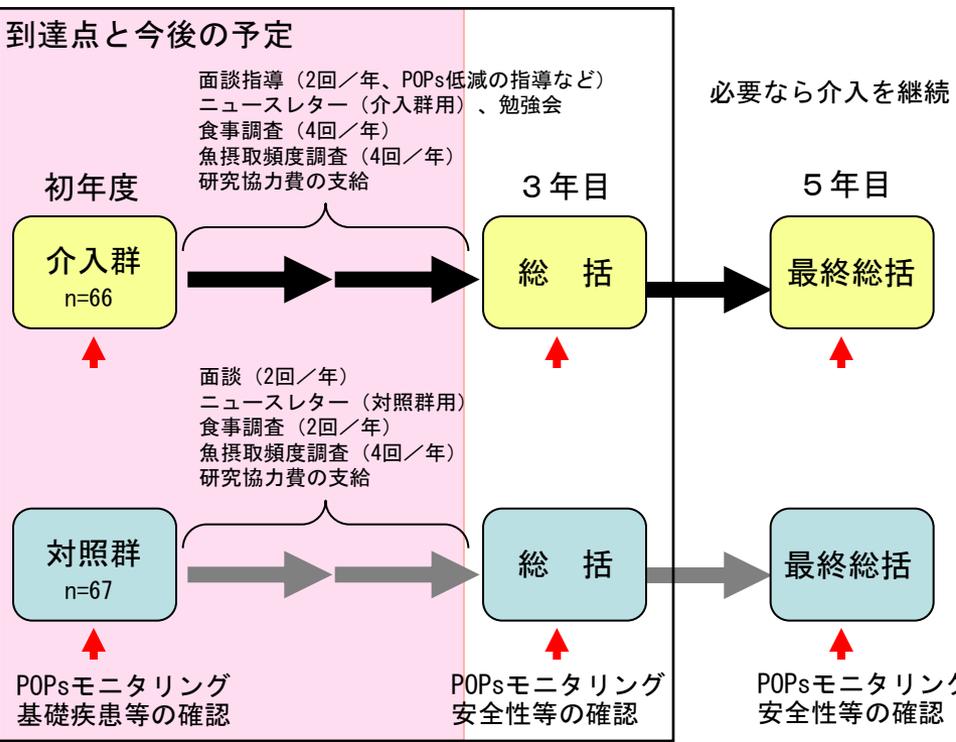


1. 介入（主要な汚染源となる魚の摂取抑制）の前後で末梢血POPs濃度を比較する。目標として、対照群に比較して30%程度の低減を目指す。
2. 血中 $\omega$ 3系不飽和脂肪酸や血清生化学検査を行い、栄養学側面および安全性に配慮する。

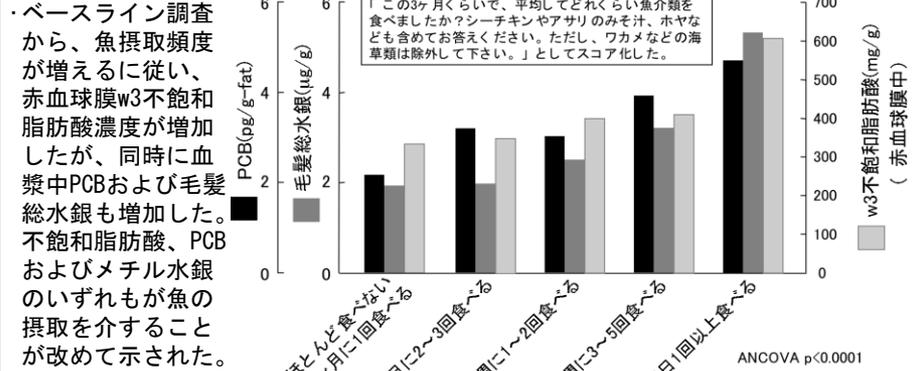
介入研究の全体像



成果 1

- ・ ベースライン調査に参加した132名（介入群66名、対照群67名）について、脱落はなく順調に調査を継続している。
- ・ 2年目の介入調査も順調に推移し、面談、勉強会、料理教室などを開催し、介入群に魚類の汚染度情報を様々な形で提供した。また、アブラナ科野菜がPOPs等のデトックスに有効である可能性を紹介した。
- ・ 介入群で貧血の悪化の懸念があるため、若年女性の鉄代謝に影響しうる要因として、血中葉酸濃度、月経出血の程度などについて追加して調査した（解析中）。

成果 2



- ・ 介入群では魚摂取量が抑制されるため、赤血球膜 $\omega$ 3不飽和脂肪酸の摂取量も減少することが予測される。介入による $\omega$ 3不飽和脂肪酸濃度の変動を把握する。

これまでの到達点

